

日本毒性学会学術年会



食品安全委員会は7月2日から7月4日まで神戸で開催された第41回日本毒性学会学術年会に参加しました。

7月3日には「食品関連化学物質のリスク評価上の問題点と今後の対応」についてワークショップを開催し、熱心な聴講者と毒性学の理解に必要な考え方と最近の研究進展について意見交換を行いました。

日頃から専門調査会において毒性学研究者の方にご協力いただいておりますが、さらに多くの毒性学関係者の方に食品安全委員会の活動を知っていただくことを目的に学会会場

内でパネル展示を行い、集まった参加者と質疑応答や意見交換などを行いました。来場者からは食品安全委員会の具体的な活動について様々な

質問がありました。また、食品安全委員会が発行した季刊誌「食品安全」や英文ジャーナル「Food Safety」についても紹介しました。

表 「食品関連化学物質のリスク評価上の問題点と今後の対応」
ワークショップ内容

重金属環境汚染物質の食品健康影響の評価の経験から	佐藤洋	内閣府食品安全委員会
核内受容体機能の種差と毒性	山添康	内閣府食品安全委員会
トリアゾール化合物の発生毒性について	納屋聖人	公益財団法人 食品農医薬品安全性評価センター
従来からの遺伝毒性試験からの発がん性の予測	西川秋佳	国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター

▲座長：山添康（内閣府食品安全委員会）
石塚真由美（北海道大学大学院獣医学研究科）



第41回 日本毒性学会学術年会プログラム

<http://jsot2014.jp/contents/program.html>

平成26年度 食品健康影響評価 技術研究成果発表会を開催



▲発表会の様子。

9月26日（金）、食品安全委員会では「平成26年度食品健康影響評価技術研究成果発表会」を開催しました。当日は平成25年度に終了した研究課題のうち、下記の3つの成果について研究者から説明が行われました。

注：科学を基本とする食品健康影響評価（リスク評価）の推進のため、リスク評価ガイドラインの作成や新しい評価方法の開発などを行う提案公募型の委託研究を実施しています。

研究課題 アルセノシュガー、アルセノリピッドを含有する食品摂取による健康リスク評価

主任研究者・**圓藤 吟史** 大阪市立大学大学院医学研究科産業医学分野 教授



研究課題 ラットにおける遺伝毒性・反復投与毒性併合試験法の開発

主任研究者・**西川 秋佳** 国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター長



研究課題 食品を介するリステリア感染症に関わる高病原性リステリア株の評価と生体側の要因を加味した食品健康影響評価に関する研究

主任研究者・**五十君 静信** 国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部長



研究の概要は右記URLでご覧いただけます。



<http://www.fsc.go.jp/senmon/gijyutu/index.html>